八木書店 近代文学特別講座

活字をはみだすもの 第14回

遺すもの、遺されたもの ―正岡子規資料と周囲の人々

講師 大木志門（おおきしもん）

◇開催 6月3日（土） 13:00～14:00

本年生誕150年を迎えた正岡子規は、病に苦しみながら短詩型文学の革新に邁進し、明治35年に惜しまれながら短い生を終えました。本講座ではその原稿・筆跡類を主に鑑賞します。子規は近代の文学者として最も早い時期から、手厚く顕彰された一人で、再建された住居（子規庵）や多くの資料が残っています。この保存に尽力した寒川鼠骨をはじめとする弟子・知友の人々の姿、同い年の旧友・夏目漱石のことなども話題にします。

【講師紹介】 山梨大学准教授、1974年生。徳田秋聲を中心に、明治から昭和戦前の自然主義文学・私小説を研究。今回の関連論文に「文学の「記憶装置」としての「家」－前文学館運動として見る子規庵と漱石山房」（2016・11「日本文学」）がある。

四季を彩る詩の花束 ―佐藤春夫『美の世界』

講師 河野龍也（こうのたつや）

◇開催 6月3日（土） 15:00～16:00

『美の世界』は1961年、晩年の円熟に達した春夫が存分にその審美眼を発揮した詩歌鑑賞の手引きで、題材は古今東西に及んでいます。安田靫彦らが挿絵を担当して『朝日新聞』PR版に連載されたのち、翌年豪華限定本が刊行されました。若き皇太子妃の愛読書であったという逸話も伝わる本作を、推敲の跡もおびただしい生原稿と原画資料で楽しみます。

【講師紹介】 実践女子大学准教授、1976年生。佐藤春夫を中心に、美術と文学ジャンルの交流や作家の異文化理解に関心がある。

堀辰雄書簡から見る葛巻義敏 ―芥川龍之介の甥と同年代の作家たち

講師 庄司達也（しょうじたつや）

◇開催 6月17日（土） 13:00～14:00

芥川龍之介の甥である葛巻義敏は、龍之介没後の岩波書店版全集をはじめとして、芥川に関係する多くの出版・企画に携わった人物である。堀辰雄、坂口安吾ら作家たちとの交友も知られており、今回は、堀が葛巻に宛てた書簡を手がかりに、彼の文学青年としての一面に迫りたい。

【講師紹介】 横浜市立大学教授、1961年生。芥川龍之介の〈人〉と〈文学〉を主たる研究テーマとし、出版メディアと作家、読者の関係にも関心を持つ。また、作家が聴いた音楽を蓄音機とSPレコードで再現するレコード・コンサートなども企画・開催している。

宇野千代『色ざんげ』の周辺 ―木内高音宛書簡から

講師 中澤 弥（なかざわ わたる）

◇開催 6月17日（土） 15:00～16:00

生誕120年を迎える宇野千代。『色ざんげ』は東郷青児の心中未遂事件に取材した作品として知られており、千代と青児は取材をきっかけに同棲する。単行本『色ざんげ』が中央公論社から刊行されたのは昭和10年のことであり、すでに二人は同棲を解消していた。担当の編集者だった木内高音宛の書簡を読みながら、書物のなりたちや装丁などに触れていきたい。

【講師紹介】 多摩大学准教授、1959年生。1920年代から30年代にかけての文学と諸芸術との交流を研究テーマとする。

※参加費無料 参加ご希望の方は左記 QR コード、または別紙申込書をご覧ください。 （2017.5.1）

八木書店 古書出版部 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-1 営業：10 時～18 時 定休：日祝
TEL 03-3291-8221 FAX 03-3291-8223 https://catalogue.books-yagi.co.jp/ mailto:kosyo@books-yagi.co.jp